



小池 光選

黒皮の踵の減りて光る靴しじみと見るわれの靴なり  
市川市 伊東香野子

【評】 いまでは減多に履くこともなくなった外出用の黒靴。あるときしじみとそれを見ている。いつの間にかすっかり踵が擦り減っている。まるでじぶんを見るように。

虎魚とはまごにぎやかな魚なりそのけそのけチンドン屋がゆく  
宮崎市長友 聖次

【評】 チンドン屋さんというものも見えなくなつたが、まだどこかには残っているのか。オコセという奇怪な外見をした魚、「そのけそのけ」というところがおもしろい。

父母逝きて摘む人もなきふるりの食用菊は今年も咲けり  
足利市 熊田 敏夫

【評】 食用菊というものがあって菊の花を食べる。庭先にそれを亡き父母は植えていたのだらう。人死んで、花咲く。あわれが深い。

わすかなる嬌しきことの今日ありて瓶ビール買つ帰りの途で  
仙台市 千葉 幸平

葛の花の咲き誇るさまに思ひ出すかの女優木暮美千代を  
東京都 福島 隆史

幽、目、耳とそれぞれ部品とりかえてどの位持つかこの本体が  
下野市 川中子とよ子

朝夕の定刻に来る野良のため鰯をおろる長生きしろよ  
市川市 安田 恭子

若き夢爆ぜし日のことほろほろと天竺牡丹の紅が散る  
秩父市 高橋 秀文

先生は「興」と言ふ字の書き順を黒板に書かせ我を罰せり  
横浜市 山本喜太郎

ふとふれしお棺の中のおはの髪ふわりやさしきあの日のまにに  
大阪府 浜谷 恵子

栗木 京子選

ブラウスは四十年前も前のもの出番はいつも免許の更新  
あきる野市 大西 国子

【評】 まるで礼装のようなブラウス。運転免許証の写真はこのブラウスを着て、と決めているのである。安全運転のためのお守りと言えよう。四十年という歳月に圧倒される。

兄逝きて火急の連絡なくなりぬスモホ持たずに畑へ出かける  
南門市 中川 文和

【評】 兄の体調が急変したときのためスモホを手放せなかった作者。残念ながら兄は逝去したが、悲しみと引き換えのように静かな時間に戻った。下句の動作が心に沁みる。

葛の葉のからむ茂みに野ぶどうの銀河のやうな瑠璃の実探す  
和泉市 松浦 杏子

【評】 からみ合う葛の葉の奥に野ぶどうの瑠璃色の実が見える。「銀河のやうな」という比喩が新鮮で、歌の空間が一気に広がった。ガラス戸をすすんでとはまる雨滴なり停戦のあの空爆を知る  
生駒市 高橋 裕樹

自転車で隧道くぐれば肌を刺す風の冷たさやうやく秋に  
我孫子市 武内 俊子

スウェーデンのノーベル賞の会場を訪問もした市場調査で  
習志野市 郷 知念里

飛び方が妙だと空を仰ぎけりひき逃げを追うへりと判明  
横浜市 杉山 太郎

軒下の日陰借りたる花屋には「秋桜入荷しました」の文字  
広島市 宇井モナミ

論すこと論されること遠のきてしずかに暮るる古希の夕暮れ  
白河市 塚野 高志

眠る人描く人歌う人もいて隅田川べり日曜日の午後  
新座市 田中 美登

俵 万智選

子に栗を沢山入れてあげたくて細かく動く母のしゃもじは  
高島市 宮園佳代美

【評】 栗に狙いをつける、しゃもじという道具は使い勝手が悪い。そもそも、ざっくりよそものだから。「細かく」の観察が丁寧で、母の愛情がストレートに伝わってくる。強敵に得意料理を尋ねればコロケというほどよき回答  
松江市 小林 里純

【評】 恋敵が料理のライバルが等しきは明らかにせず、回答がメインになっているのが面白い。イモから作るとかなり面倒で技術も必要だが、庶民的なところ、確かにコロケは強敵だ。さしすせそと傘差す人が過ぎにけり囁くような秋雨の中  
柏市 塩田 淳文

【評】 サ行音が一首全体に響きわたり、秋雨の雰囲気、よく伝えている。初句の枕詞のような入り方もユニークだ。

オレ思春期で反抗期しかも変声期やぞカラオケ親と行くわけないわ  
吹田市 阿部ひろ子

新しいかなしみを産み落とすため身重なところ海に来てみた  
横濱市 安西 大樹

先手でも恋は有利にならなくて将棋指す君の背中を見ている  
松江市 渡辺 理紗

置き手紙のように茶碗は伏せられて行間を読む夜のキッチン  
高島市 くらたか湖春

このサイズでこんな丸さの箱庭を【地球】と最初と呼んだのは誰?  
枚方市 久保 哲也

よく噺せる祖母を不思議に思ってた理解が杖をついて追いつく  
伊勢市 藤田ゆきまち

厨からペコンポコンと音がしてペットボルの踊る秋の夜  
つくば市 岩瀬 悦子

黒瀬 珂瀾選

早々と眠りこけたる海賊を抱いて行進ハロウィンの魔女  
京都市 峰尾 秀之

【評】 海賊のコスプレのまま疲れて寝ちゃったちびっ子を抱き上げる魔女コスお母さん。楽しいハロウィンイベントの一景。この子、個體マークの帽子とか被ってたりして。両側の薄の群れにお辞儀され駆け出したのに駆け出せなくて  
松江市 犬山 純子

【評】 悪夢のような一首。延々とお辞儀してくる薄がまるで妖怪じみて、逃げたくてもここからずっと逃げられない。私はこのまま薄ヶ原の一部になってしまふのだろうか。細胞のみな入れ替はると思ふまで金木犀の香を深く吸ふ  
稲城市 山口 佳紀

【評】 金木犀は秋の風物詩。やっとな夏が去って、季節が入れ替わったと実感する。そんな風に細胞も入れ替わったら清々しいかも。

また今日も誰かの記憶媒体になつてしまった金木犀よ  
福岡市 水川 海

ボサノヴァがジャズへと替わり秋来ぬとピアノが告げる静かな月夜  
東京都 長野 靖

稲田は青々として秋の陽に実ることなき穂を抱き始む  
南アルプス市 望月 迪子

新米を炊くには水は少なめに妻が死ぬ前教えてくれた  
山陽小野田市 秦 一憲

毎日のクマの被害に辟易し散歩買いもの暮らしが狂う  
横手市 佐藤 ミサ

女性初総理のニュースわたくしは切らした醤油買いゆかな  
埼玉県 鈴木えみ子

エベレスト征した女性田部井さんの残した歌を妻唄ひをり  
南足柄市 柏木 茂